

食道癌におけるSIP1発現の意義と上皮間葉移行との関連性についての検討

当研究は当第二外科において1992年から2002年までに食道癌を切除された方を対象に研究させていただきます。

【はじめに】

食道癌は比較的罹患率が高く、いまだに予後不良の疾患の一つです。近年、癌細胞の転移のメカニズムの一つとして上皮間葉移行(EMT)という現象が注目されており、EMTの獲得が癌細胞の浸潤や転移と関連していると考えられています(図1)。

EMTの引き金の一つであるSIP1と、E-cadherinの発現の関連性は様々な癌種において報告されていますが(図2)、食道癌におけるSIP1の役割は未だに解明されていません。

【研究内容】

当九州大学第二外科において切除された食道癌の病変を使って、SIP1ならびにEMT関連因子を同定する染色を行い、このSIP1などのたんぱく質の発現の程度を測定します(図3)。

この染色の結果と患者さんの背景を比較し、SIP1が食道癌においてどういった役割をはたしているのか、考察します。

【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんの特定できる情報は一切含まれません。

もし対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

【研究期間】

研究を行う期間は承認日から2011年3月31日までと考えております。

【医学上の貢献】

この研究により食道癌におけるSIP1発現程度と患者さんの背景および予後との関連が示唆されれば、新しい予後因子などが明らかとなり、医学上の貢献はあるものと考えます。

【研究機関・組織】

九州大学大学院 消化器・総合外科(第二外科)

教授	前原 喜彦 (責任者)
准教授	掛地 吉弘
講師	森田 勝
助教	佐伯 浩司
助教	吉永 敬士
医員・大学院生	吉田倫太郎

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

Tel 092-642-5466 (第二外科内: 掛地吉弘、吉田倫太郎)

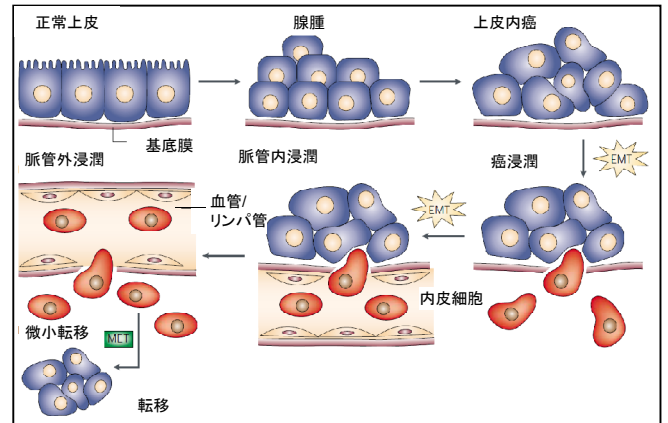


図1: EMTの関与した転移・浸潤のメカニズム (Nature Review Cancer 2002年 より改編)

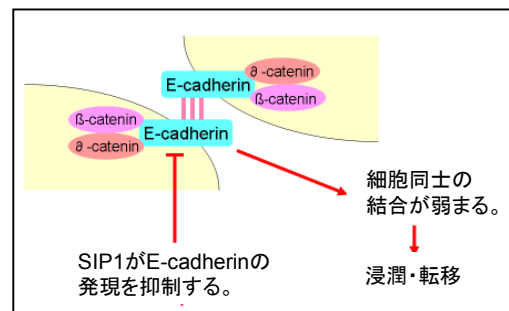


図2: SIP1とE-cadherinの関係

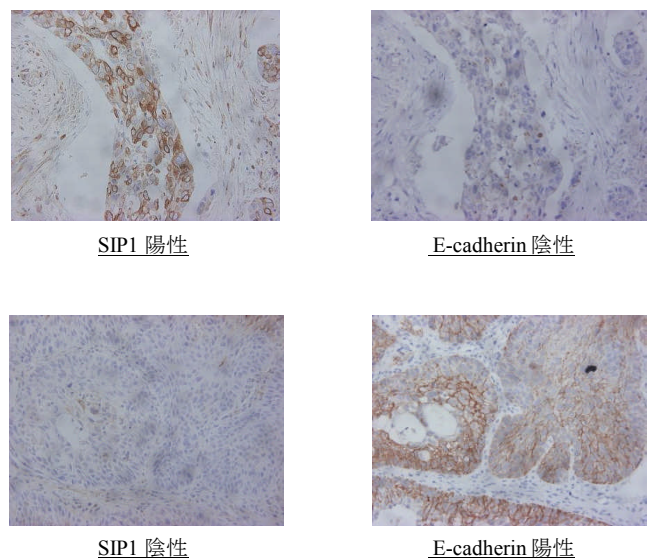


図3: SIP1とE-cadherinの染色の対比
茶色く染まっている部分が目的のタンパク質
SIP1が発現している症例ではE-cadherin発現が减弱している(上)。
SIP1が减弱した症例ではE-cadherinが発現している(下)。